

通院治療センター のご案内

当センターでは、外来での化学療法や輸血などの治療を行なっております。『通院治療センター』をご利用になる前に、「通院治療センターのご案内」をお読みください。ご不明な点がございましたらセンタースタッフにお聞き下さい。

これからはじまる化学療法に対して、心配なことや不安なこともあることと思います。患者さんが、安心して治療が受けられるよう私たちスタッフが支えてまいりますので、よろしくお願いいたします。

成田赤十字病院 通院治療センター
0476(22)2311
内線：7130



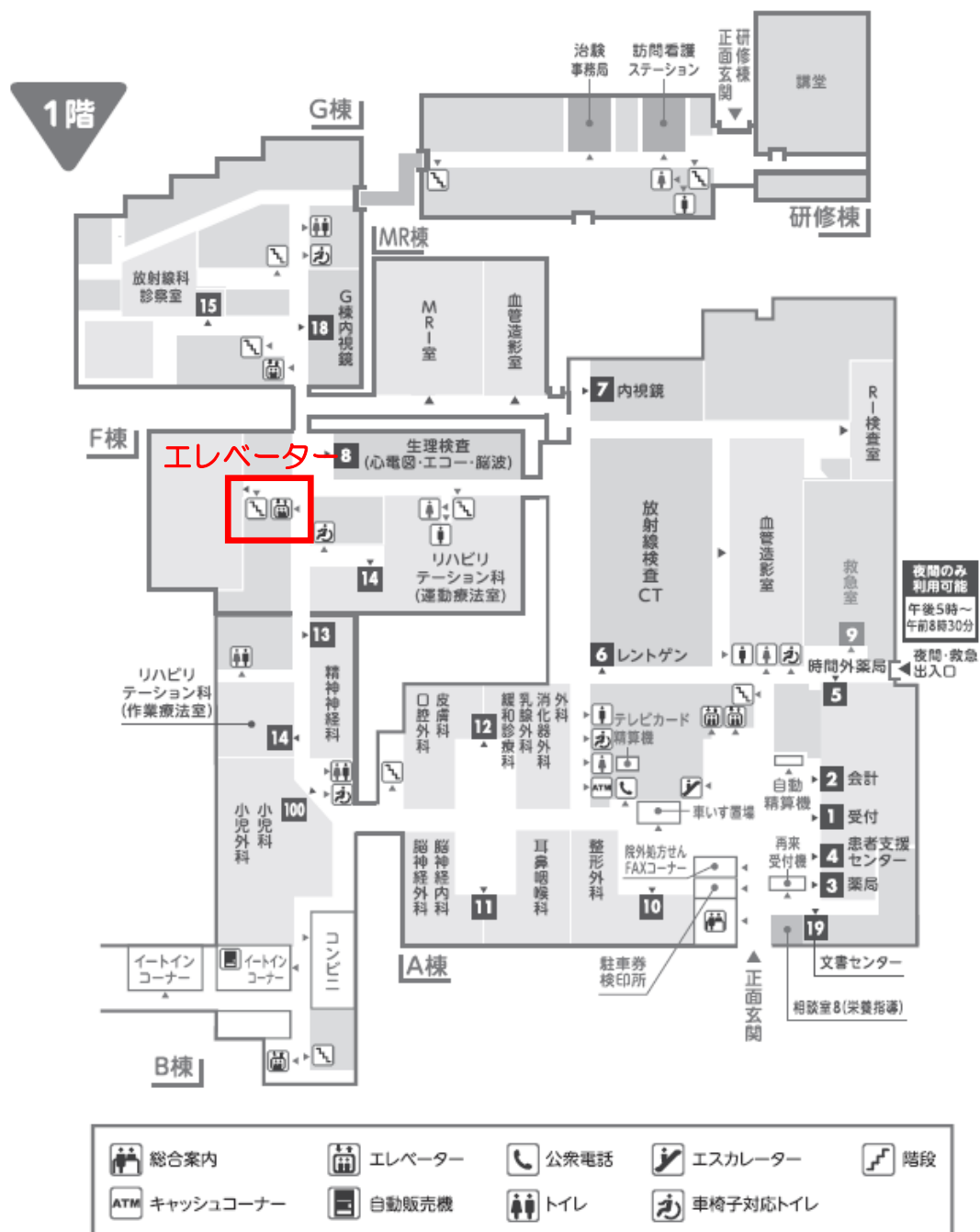
平成 18 年 11 月 20 日 作成 平成 24 年 3 月 5 日 改訂 平成 28 年 7 月 15 日 改訂
平成 29 年 1 月 17 日 改訂 平成 30 年 4 月 12 日 改訂 令和 2 年 2 月 28 日 改訂
令和 3 年 2 月 26 日 改訂 令和 4 年 2 月 25 日 改訂 令和 4 年 6 月 17 日 改訂
令和 4 年 11 月 11 日 改訂 令和 5 年 4 月 7 日 改訂 令和 5 年 7 月 13 日 改訂

以口方丁一第九 改訂 令和 6 年 6 月 10 日 修正 令和 7 年 1 月 31 日 改訂

令和 7 年 6 月 2 日 改訂

通院治療センターは、平成 18 年 5 月に開設され、平成 27 年 11 月に 20 床に増床し、令和 6 年 3 月に F 棟 5 階に移転いたしました。

当センターでは、外来化学療法ならびに輸血療法を行っております。



F棟エレベーターで5階までお越しください

来院してから、外来での診察、センターでの治療、お会計までの流れと注意点等について、ご案内いたします。

1. 受診の受付

エントランスホールにある自動再来機で受診の受付を行ないます。
自動再来機に診察券を通すと、「案内票」（１枚）が 出てきます。
クリアファイルに「案内票」を入れてお持ち下さい。



2. マイナンバーカード（保険証）の登録

自動再来機のとりにある「マイナンバーカード読み取り機」で保険証の登録を行ないます。
「顔認証」または「暗証番号」で資格確認を行います。

3. 検査（採血）

2階20番の採血室で採血を行ないます。
血液検査のある方は、採血室の受付へ「案内票」を手渡しで提出して下さい。

- 採血のない方は、直接外来へお越し下さい。
- 点滴の回数を重ねると血管がもろくなり、しだいに針が血管に入りにくくなる場合があります。血管が細く針が入りにくい方は、採血の際、「肘近くの血管や太い血管は、治療用に残しておいてください。」と、お伝えください。

針を入れる前にできる『針を入りやすくするための工夫』

- ① 市販のカイロ等で腕全体を温め血管を拡げる
(衣類の上からわきの下にカイロを当てる、指先でカイロを握るなど)
- ② 温かい飲み物を飲んで、全身を温める
- ③ 手を下にさげて、手を握ったり広げたりして、手の運動を数回行う

<治療日前日の採血について>

- 治療日前日のご都合の良い時間に来院し、事前に採血して頂くことで、治療当日に検査結果を待たずに、診察を受けることができます。
- 採血の受付時間は、8時00分～16時30分となります。比較空いている午後は、速やかにご案内できます。再来受付機は通さず、「予定票」を持参し、直接採血室の受付へお越しください。
- 治療日前日の採血を希望される方は、主治医にご相談ください。



4. 各診療科窓口での受付

- 各診療科受付窓口で案内票を提示し、受付を行ないます。その際、マイナンバーカードで保険証を登録したことを事務にお伝えください。

5. 各診療科での身体測定と問診票の確認

- 各診療科で体重と血圧を測定してください。
- 各診療科の看護師が、体温、血圧、脈拍、酸素飽和度等を測定し、『通院治療センター問診票』を確認いたします。
- 事前に配布されている場合は、『生活のしやすさに関する質問票』も併せて確認いたします。



6. 担当医による診察

- 診察前検査（採血・レントゲンなど）のある患者さんは、結果が出てから診察となります。体調の変化や症状、気になることなど治療後の様子を医師にお伝えください。医師が診察し、治療実施を判断します。



- 多くの抗がん剤は、「身長」と「体重」から割り出した「体表面積」によって投与する量が決まります。体重に変動があった場合は必ず医師にお伝えください。
- 患者さんがご自身の体調を管理するためにも、体調の変化を記録し、「体温」「血圧」「体重」は定期的に測定しましょう。

※ 治療開始前の B 型肝炎ウイルス感染症の検査実施について

治療により免疫が抑制されると、血液中や肝臓に残っている B 型肝炎ウイルスが増殖し、肝炎が起こり重症化することが知られています。安全に治療を行うために、体内に B 型肝炎ウイルスが存在していないか、HBs 抗原・HBc 抗体・HBs 抗体の血液検査を実施し、確認しております。検査の結果、感染歴が認められれば、抗ウイルス薬の予防投与を行ったり、治療中と治療終了後 1 年間は、血液検査でウイルス量を調べたりしながら、安全に治療を行っていきます。

7. 通院治療センター受付

F 棟5階 17 番の通院治療センターで治療を行います。
 治療を行う場合は診察後、トイレを済ませてから患者さん
 ご自身で、F 棟エレベーターで5 階までお越し下さい。
車椅子をご利用の患者さんは、搬送用のエレベーターを
 ご利用ください。



- 通院治療センター受付で、名前・生年月日を伝えてください。
- 番号札を渡しますので、問診票を準備して、待合室にてお待ちください。看護師が順番に伺い、問診票を確認後、本日の座席をお知らせします。（座席カードを渡します。）
- トイレを済ませ、表示されている座席番号でお待ちください。
- 治療内容により、順番が前後することがありますがご了承下さい。



通院治療センター
入口

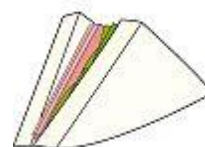


通院治療センター
受付



通院治療センター
待合室

- 当センターでは「通院治療センター問診票」を患者さん（ご家族）に提出していただいております。看護師に提出してください。
- 各外来またはセンターで内服をされる患者さんは、服用時のお水をご準備下さい。センター内では、治療を受けながらお食事をして頂いても結構です。ただし、他の患者さんの迷惑とならないよう匂いの強いものはご遠慮下さい。点滴治療中に飲食等で生じたごみは、お帰りの際に待合室のごみ箱をご利用ください。
- 点滴（輸血）開始後は、原則として食堂や売店に行くことができません。センターにお越しになる前に、お飲み物やお食事をご用意しておくことをお勧めします。



【付添いについて】

- 原則、ご家族や付き添いの方の入室は、ご遠慮いただいております。

【待合室のご利用について】

- 待合室でのお食事はご遠慮していただいております。水分はお飲み頂けます。
- 患者さんのご利用が優先になります。患者さんが治療している間のご家族の待機場所としての利用はご遠慮ください。案内票（予定票）に表示されている所要時間を目安に、お迎えをお願いします。ご家族や付き添いの方が、会計前に院外へ外出される際は、外来患者駐車券検印所で『通院治療センターで治療していること』をお伝えください。検印を受け 100 円で出庫可能です。

案内票
Information Sheet

I D: 9820045
テスト カンジャ
氏名: テスト 患者 様
生年月日: S63.08.08 (34)
Date of birth

保険種別 41
最終保険確認日 R04.10.13
初診□・初診(組)□ () 科
手賃保血

この案内票を検査や受診科受付に提出してください。
お名前をお呼びするまで待合室にてお待ち下さい。
Please show this information sheet to the respective department / examination counter staff.

自動精算機にて精算をお願いします。
□会計窓口へお寄りください。精算をお願いします。

R05年04月05日受診分

本日の診察および検査内容

予約時間	診療科	番号	内容	場所	注意事項	実施
日未定	内科		採血	A棟2階20番中央採血室		
前回分	内科		[1.5h]通院治療 [夜間対応]	A棟1階6番		
09:00	内科		通院治療[0.5h]	通院治療センタ		

[1.5h]通院治療

ここに、通院治療センターでの
所要時間が表示されます！
この場合、治療にかかる時間の目安は
1.5h（1.5 時間）です

8. 通院治療センターの治療環境

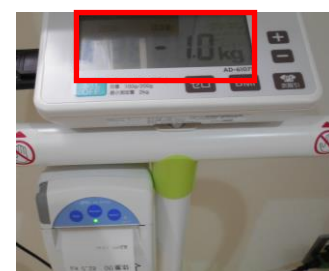
- 待合室では、ウィッグや帽子の見本を展示しています。抗がん剤治療に関連したパンフレットなども取り揃えておりますので、ご自由にお持ちください。一部試供品もございます。ご希望される場合は、看護師にお申し出ください。



- 待合室にある体重計はご自由にお使いください。

<使用方法>

- ① 体重計の液晶画面に『-1.0 kg』と表示されていることを確認してください。表示が異なるときは受付に声をかけてください。
- ② 体重計の手すりにつかまりながら靴を脱いで、体重計にお乗り下さい。
- ③ 手すりにつかまった状態で体重が測定できます。体重が安定するまでしばらくお待ちください。
- ④ 体重が安定すると『ピッ』と電子音が鳴り、体重が印字された用紙がプリントされます。用紙は切り取り、記録用としてご自身で保管ください。



- 通院治療センター内には3か所のナースステーション、面談診察室、多目的室、8か所のトイレ、リクライニングチェア、ベッド、個室を備えています。

＜通院治療センターの様子＞



面談診察室



ナースステーション
(ベッド側)



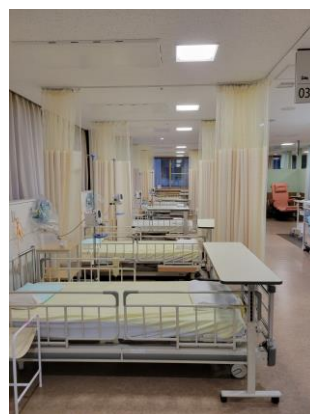
ナースステーション
(中央チェア側)



多目的室



個室



ベッドブース



チェアブース



チェアブース



ベッド

- リクライニングチェアー（ライムグリーン／ピンク／イエロー／ホワイト）とベッドをご用意しています。

患者さんの体調や治療内容により、選択させていただきます。



リクライニングチェアー（電動）
手台・足台の位置が調節できます
昇降機能がついております



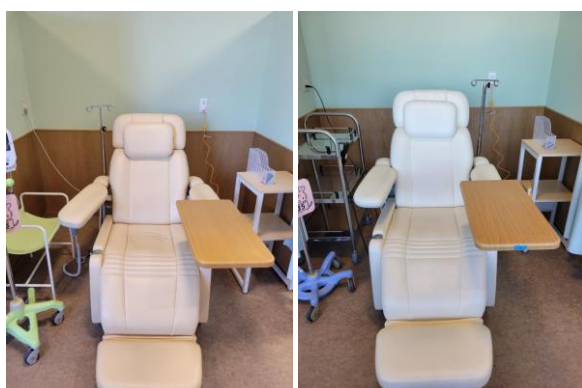
横になって休めます
背中・足元の角度が調節できます



リクライニングチェアー（電動）
手台・足台の位置が調節できます



横になって休めます
背中・足元の角度が調節できます



リクライニングチェアー（電動）



横になって休めます
背中・足元の角度が調節できます

- トイレはセンター内に8か所設置しております。
 男性用トイレが2か所、女性用トイレが2か所、共用トイレが2か所、
 車椅子／オストメイト対応トイレが2か所あります。



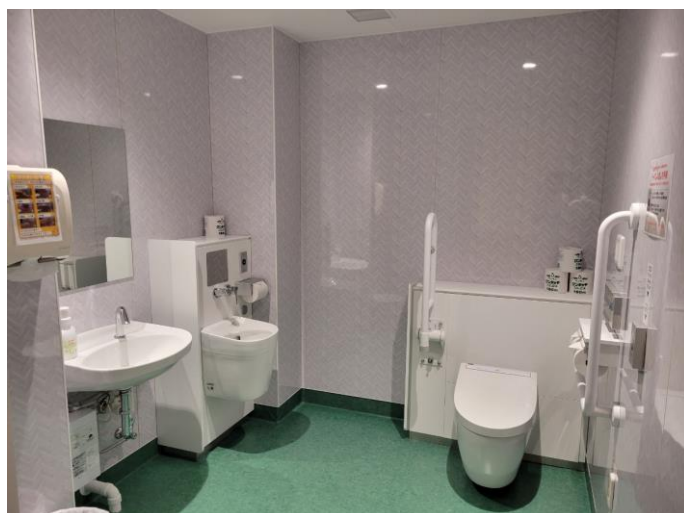
女性用トイレ



男性用トイレ



共用トイレ



車いすでトイレをご利用できます

オストメイト用のトイレも
設置しております

治療中、トイレをご利用される際は、ご自身で電源コードの抜き差しをお願いします。介助が必要な場合は、ナースコールで看護師へお申し出ください。



コンセントは三又です

<トイレの使用方法について>

- トイレのフタの開閉と水洗は、センサー式になりました。便座は上がりません。抗がん剤が含まれた尿が飛び散らないように、ご利用時は、着座での使用にご協力をお願いします。
- ご利用後は、ふたを閉めて2回流してください。
- トイレの汚れに気づかれた場合や、オムツ交換等でビニール袋が必要な場合は、遠慮なく看護師にお申し出ください。

フタの開け方

- ① センサーに2秒、手をかざします。

水の流し方（2回流す）

- ① センサーに数秒、手をかざします。
- ② 自動でフタが閉まり、自動で水が流れます。（1回目）
- ③ 手動で『流す』スイッチを押して、水を流してください。（2回目）



<流すスイッチ>



<センサー>



※ 一部トイレは、真空排水のため流すときに大きな音がします。

成田赤十字病院

- 通院治療センターでは、治療中、快適に過ごすことができるように、無料 Wi-Fi サービスを提供しています。利用される端末や回線の混雑状況により、速度低下や繋がらない場合もございますが、ご了承ください。
音楽や動画は、音が出ないようにイヤホンを使用してご鑑賞ください。

9. 薬剤の準備

- 使用する薬剤は、薬剤師が通院治療センター内のミキシング室で一つずつ準備しています。
- 薬剤によっては、ご用意できるまで時間を要する薬剤（溶かすのに30分以上かかる薬剤）もございます。また、センターの混雑状況により、お待ちいただくこともあります。ご了承ください。



2名の薬剤師が、患者さんのお名前、薬剤の種類、量、投与方法について確認しながら準備しています
体重に変動があった場合は、治療当日に薬剤の量に変更される場合もございます。
その際は、準備にお時間をいただきます。

10. 治療開始

【治療開始まで】

- トイレを済ませて、カーテンを開けたまま、席（ベッドまたはリクライニングチェア）でお待ちください。座席カードは、テーブルの上に見えるように置いて下さい。
- 再度、フルネームと生年月日を確認させていただきます。必要時、体温、血圧、脈拍、酸素飽和度等を測定し、使用する薬剤によっては、モニターをつけて観察させていただく場合もございます。
- 問診票の内容を確認させていただき、医師をはじめとする専門職種と連携をとり、副作用などに対してご相談に対応いたします。

【点滴針の挿入時のお願い】

- 血管が細く針を刺すことが難しい場合には、事前に温かい飲み物を飲んでいただくことや、市販のカイロ等で腕を温めるなどのご協力をお願いすることがございます。それでも、難しく苦痛を伴う場合は、主治医に相談させていただきます。
- 点滴の針を挿入後、その場でロックをします。薬剤の準備が出来次第、治療を開始します。

1 1. 治療中

- センターでは、患者さんや、点滴（輸血）の間違いを防ぐために、パソコン・案内票（バーコード）を使用した確認システムを導入しております。点滴の交換のたびに、フルネームと生年月日を確認させていただきます。
- 治療中は、安全に治療を実施するために、定期的に輸液ポンプの設定や点滴針の挿入部の皮膚の状態を看護師2人で確認させていただきます。また、ご気分がすぐれない場合や点滴針の挿入部に異常を感じた場合は、我慢せずにすぐにナースコールで看護師にお知らせください。



【静脈炎について】

- 使用する薬剤の中には血管を刺激し炎症を起こす薬があります。あらかじめ、電気毛布で保温し対応しますが、末梢の静脈から点滴をすると血管が薬液による刺激を受けやすく、血管に痛みを感じたり、血管を傷つけたりして静脈炎を起こすことがあります。
- 静脈炎で血管が傷つきまろくなると針が血管に入りにくくなるだけでなく、薬液が血管の外に漏れてしまう危険性も高まると考えられています。静脈炎の程度によっては点滴部位の変更もやむを得ず、炎症を起こしていない血管へ針を入れ直すことがあります。



【血管外漏出について】

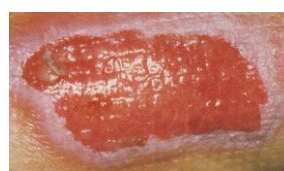
- 投与された薬剤が血管の外に漏れて周りの組織にひろがることを『血管外漏出』と呼びます。抗がん剤の投与を繰り返している患者さんの血管はもろくなっており、薬剤が漏れやすいとされています。投与に関しては細心の注意をもって実施しておりますが100%予防することは難しく、化学療法中に0.5%~0.65%の頻度で発生するといわれております。
- 薬液が血管の外に漏れると漏れた周囲に腫れや痛みを伴い、炎症が1~2週間続くことがあります。使用する抗がん剤や漏れた薬液の量によっては、症状が長期間にわたり、しこりを残したり、水泡やびらんになり、症状が進行して壊死に陥ることがあります。部位によっては、神経を圧迫したり関節の動きを悪くしたり、後遺症を残す可能性もあります。



発赤



水泡



びらん

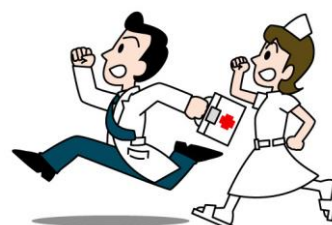


壊死・潰瘍

- 血管外漏出は、起こさない予防と早期の発見と処置が大切になります。
- 安全を確認して投与を開始しても、投与中の手や腕の動きなどにより点滴針の挿入部の安静が保てず、薬液が血管の外に漏れてしまうことがあります。血管外漏出を起こさないようにするために、患者さんには、点滴針が入っている手や腕をできるだけ安静に保つようご協力をお願いしております。肘や手首などの関節に点滴針が挿入された場合は、固定具等を使用して安静が保っていきます。
- 看護師が定期的を確認いたしますが、点滴中に痛みや灼熱感、圧迫感やハリ、不快感、違和感、しびれなどの異常を感じた場合、ためらわずにナースコールで看護師にお知らせ下さい。
- また、症状がすぐには現れず、翌日から数日後に現れることもあるので、投与した数日間は点滴した部位に注意いただき、異変があった場合には、病院に連絡をお願いいたします。

【血管外漏出時の対応について】

- 薬液が血管の外に漏れた場合（漏れたことが疑われる場合）は、重症化を防ぐためにも迅速に対応いたします。院内で決められた「抗がん剤血管外漏出時のガイドライン」に従い、医師の診察のもと、解毒剤の投与・ステロイドの局所皮下注射・ステロイド等の外用療法などを行い、経過を観察させていただきます。
- 皮膚への障害の程度によっては、専門医への受診や、植皮術・皮弁形成などの手術が必要になることもあります。これら漏出に関する処置・治療は、内容によっては、高額になる場合がありますのでご了承ください。



【アレルギー反応について】

- アレルギー反応は、治療中に起こる副作用の1つで、どの薬剤でも起こす可能性があります。使用する薬剤によっては、モニターをつけて観察させていただく場合もございます。
発熱、じんましん、かゆみ、動悸、息苦しさ、冷や汗、気分不快などが主な症状になります。速やかに対処すればほとんどが治りますが、重症化するとショック状態になることもあり危険です。
- 治療中に、「気分が悪い」「突然咳が出はじめた」「鼻がムズムズする」「顔がほてる」「かゆい、ブツブツがではじめた」などの症状が出はじめた場合やいつもと違う症状がある場合は、「これくらいは我慢できる」などと思わずにすぐにナースコールで看護師にお知らせください。
- 使用する薬剤によってはアルコールが含まれる薬剤もございます。
お酒が極端に弱い方やじんましんが出たことのある方は、治療前にその旨をお知らせください。
- また、症状がすぐには現れず、自宅に帰ってからあらわれることもあるので、異変があった場合には病院に連絡をお願いいたします。
- 輸血製剤は、患者さんの血液と適合試験を行い準備しておりますが、同様にアレルギー反応が生じる可能性があります。

【管理栄養士による栄養指導について】

がん治療中の食事と栄養補給は、治療効果を高めるだけでなく、がんと闘う体力を維持する上で、とても大切になります。がん治療中は、正常細胞へのダメージも強く、通常よりエネルギーも必要になります。しかし、食欲不振や吐気・嘔吐、口内炎、味覚変化など治療による副作用や病状などで、十分に栄養を補給できなくなることが多く、食事の工夫が必要になります。

当院では、外来で通院治療中の患者さんに対して、食欲低下が起こる前の早期の段階から、管理栄養士による栄養指導を実施しています。患者さんの食生活を知り、栄養バランスを考慮した食事の提案や、症状に合わせ効率よく必要な栄養素を摂取できる工夫を提案しています。



1 2. 治療終了

○ 必要に応じて、体温・血圧・脈拍・酸素飽和度等を測定いたします。

○ 点滴の最後に生理食塩液で薬剤を洗い流します。

生理食塩液で洗い流したことを確認してから、

点滴の針を抜きます。（治療内容によって異なる場合がございます。）



○ 針を抜いた部分は、患者さんご自身でしっかりと5分間圧迫していただきます。5分後に看護師が止血の確認に伺います。



※ 患者さんご自身で圧迫することが困難な場合や
血小板輸血・抗凝固剤内服中などで
血が止まりにくい患者様には、
止血バンドの購入をお勧めいたします。



○ 止血の確認が終わりましたら、通院治療センター受付にお声をかけてください。受付事務に座席カードを渡し『フルネームと生年月日』を伝えてください。『予定票』（処方がある場合は処方箋）と治療中の症状を記載する『通院治療センター問診票』や『生活のしやすさに関する質問票』等をお渡し致します。

○ 自動精算機にて、会計をお済ませください。
（各科外来窓口に戻る必要はありません）



13. ご家庭での留意点

抗がん剤は主に肝臓で分解され、便や尿、呼気、汗などから、体の外に排出されます。抗がん剤の一部には、尿や便の中に、抗がん剤のまま排出される抗がん剤もあります。抗がん剤治療中は、以下の点にご留意ください。

抗がん剤治療を終えて、2日間経過すれば、普段どおりで構いません。

【トイレ】

抗がん剤治療中は、座ってトイレは済ませましょう。
トイレで立って排尿すると、尿ハネが広範囲に及びます。埃の上に飛び散った尿が、乾燥し空中に浮遊して、吸い込んでしまう可能性もあります。

トイレを済ませた後に流す際は、排泄物の飛び散りや便器に残らないように、蓋を閉めて2回流しましょう。

オムツをご使用の場合は、ビニール袋に入れ縛ってから、お住いの自治体の分別ルールに従って破棄してください。

トイレ掃除する際は、手袋やマスクをつけることをおすすめします。



【洗濯物】

抗がん剤治療中に、吐いてしまったものや、尿・便で汚れてしまった場合は、2度洗いを推奨しています。1度目は、通常の洗濯物とは別にして、微温湯と洗濯洗剤を使用して洗濯しましょう。2度目は、通常の洗濯物と一緒に洗濯してください。



【お風呂】

先に体を洗い流してから、ご利用ください。
ご家族の方と一緒に入ることは、何の問題ありません。



14. その他



【携帯電話のご利用について】

- 携帯電話はマナーモードに設定の上、ご利用ください。通話は、送迎の依頼など、必要最低限でお願いします。

【貴重品の管理について】

- 貴重品やかばん等は、お手元から離さないよう患者さんご自身で、充分注意してください。



【駐車券について】

- センター利用時も外来通院の場合と同様になります。お帰りの際に、外来患者駐車券検印所で検印を受けてください。入庫から30分までは無料、入庫から12時間までは200円、以降1時間毎に100円料金が発生します。第5駐車場については、入庫から24時間までは上限が700円になります。
- 付き添いのご家族が、会計前に院外へ外出される際は、外来患者駐車券検印所で『通院治療センターで治療していること』をお伝えください。検印を受けると100円で出庫が可能です。
- 治療内容によっては、ご自分で車や自転車を運転しての来院をご遠慮いただく場合がございます。眠気を催す薬剤やアルコールを含む薬剤を使用している場合もございますので、医師にご確認ください。治療後に車を運転されると、酒気帯び運転とみなされることがあります。

【治療内容について】

- 投与した治療薬の名前や量など点滴内容が記載されたシールを貼付いたします。ご使用のお薬手帳をご持参ください。

【治療費について】

- がん治療にはお金がかかります。外来での通院治療が高額になる場合も少なくありません。医療制度については、加入している公的医療保険にお問い合わせください。また、当院のがん相談支援センター（A棟1階4番）においてもご相談に対応いたします。

【ご自宅で具合が悪くなった場合】

- 各診療科外来へご相談・問い合わせください。
- 受診される場合は、平日は午前11時までに受付を済ませ、治療を受けている科に受診して下さい。午前11時以降の受診につきましては、各診療科外来へ問い合わせ下さい。夜間休日は、救急室での対応になります。

通院治療センターで必要な
～持ち物チェックリスト～

- ☐ 診察券 ☐ マイナンバーカード ☐ お薬手帳
- ☐ 通院治療センター問診票（毎回）
- ☐ 生活のしやすさに関する質問票（事前に配布されたとき）

☆マイナンバーカードは、毎回、受診の度に「マイナンバーカード読み取り機」での登録が必要になります。

☆そのほかの医療券や受給者証については、月に1回診療科窓口にご提示ください。

- ☆ご用意いただくもの
- ☐ 飲み物・食事・おやつ
 - ☐



☆必要に応じて

- ☐ 止血バンド ☐ カイロ ☐ ティッシュ ☐ オムツ
- ☐ 替えの衣類 ☐ ストーマ袋
- ☐ 内服薬・痛み止めや降圧剤などの頓服薬
- ☐ 血圧手帳 ☐ ポートの患者記録カード
- ☐ ☐

治療当日は、採血や点滴針の挿入の妨げになるような袖口がせまい服装は、避けてください。

ゆとりのある服装と履きやすい靴でお越しください。

治療当日に採血がある場合は、
診察予約時間の1時間前を目安にご来院下さい。

